

## 競技規則「脳振盪による交代」について【追記版】 北海道カブスリーグU-15、ブロックカブスリーグU-15 競技会規定について

早春の候、皆さまにおかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

日頃より、当委員会の事業にご協力を賜り、感謝申し上げます。

さて、標記の件につきまして、今月開催いたしました第3種委員会、15地区FA第3種委員長会議において決定しましたので、下記の通りお知らせいたします。

ご不明な点がございましたら、大石橋までお問合せください。

### 記

#### ●2025年度 高円宮杯 JFA 第37回全日本U-15サッカー選手権大会開催要項一部抜粋

2. 競技会規定 以下の項目については本大会の規定を定める。

(3) 競技者の数及び交代回数

- ② 交代要員の数：9名以内
- ③ 交代を行うことができる数：5名以内
- ④ 80分間の交代回数は、各チーム最大3回とする(1回に複数人を交代することは可能)。ただしハーフタイムでの選手交代は、交代回数に含まれない。
- ⑥ 脳振盪またはその疑いのある選手が発生した場合の取り扱いは、次の通りとする。
  - a. 脳振盪またはその疑いのある選手の交代(以下「脳振盪交代」という)は、通常交代に含まれない。
  - b. 脳振盪交代は、通常交代と判別できる、別途指定する手続きで行われなければならない。
  - c. 脳振盪交代と通常交代を同時に行った場合、通常交代および脳振盪交代の交代回数をそれぞれ1回としてカウントするものとする。
  - d. 脳振盪交代をした場合、相手チームは通常交代とは別に、1名1回の交代を追加で得ることができる(以下、本号に基づく交代を「追加交代」という)。ただし、追加交代と通常交代を同時に行った場合、通常交代および追加交代の交代回数をそれぞれ1回としてカウントするものとする。
  - e. 1試合における各チームの脳振盪交代および追加交代の交代人数は、それぞれ1名とする。

#### ●脳振盪交代の原則

- ① 1試合において、各チームは最大1人の「脳振盪による交代」を使うことができる。
- ② 「脳振盪による交代」は、その前に何人の交代要員が使われているかにかかわらず行うことができる。
- ③ 氏名が届けられた交代要員の数が、「通常の交代」の最大数と同じである競技会においては、「脳振盪による交代で入る交代要員」は、交代で退いた競技者であっても交代で競技者になることができ、その前に何人の交代が行われているかにかかわらず、いつでも交代して出場することができる。
- ④ 「脳振盪による交代で入る交代要員」が使われたならば、相手チームは(脳振盪に限らず)いかなる理由であっても「追加の交代要員」を使うことができる。

#### ●脳振盪交代の留意事項

- ・ 審判員は、競技者が交代すべきかどうか、また、「通常の交代要員」、あるいは、「脳振盪による交代要員」と交代すべきかどうかというチームの決定プロセスにかかわらない。
- ・ 脳振盪を起こした、またはその疑いがある競技者は、PK戦を含むその試合の残りの時間に出場することができない。また、できる限り、更衣室や医療施設に関係者に付き添われて行かなければならない。

#### ●2025年度の北海道カブスリーグU-15、ブロックカブスリーグU-15の競技会規定について

- ・ 上述③に関わって 従前通り、交代要員の数は9名以内、とする。
- ・ 上述④に関わって 高円宮杯同様に変更する。
- ・ 上述⑥に関わって 両リーグは「9分の9」であり、この⑥に該当する。  
「脳振盪交代」に限り、通常交代で退いていた競技者も交代要員となることができ再出場が可能である。これはハーフタイムを除く通常交代の全3回を終えていなくても、また他にまだ出場していない交代要員がいても再出場可、という意である。
- ・ 上述④に関わって 相手チームの「追加の交代要員」とは、当該試合においてまだ出場していない選手に限る。ただし、交代要員(最多9名)が全員すでに通常交代で出場している状況の場合のみ、通常交代で退いていた競技者も交代要員となることことができる。